市民タイムス　令和6年（2024年）1月1日

登龍門くぐり未来へ

松本深志高校

松本市蟻ケ崎

「黄河上流のとどろき落ちる滝（龍門）をさかのぼる鯉は竜になる」―という中国の登竜門伝説。松本深志高校には「登龍門」が存在する。生徒通用門として使われ、高さ3㍍ほどの門柱に「登龍門」と記されている。石川裕之校長によると、昭和26（1951）年に旧制松本中学時代の正門（赤門）を移設。当時の岡田甫・第2代校長が名付けた。起源は春の伝統行事「鯉幟集会」にある。応援団管理委員会（応管）が鯉幟を製作し校舎屋上に掲げる。岡田校長の案で始まり、一時中断したが「竜門の滝を遡上する鯉魚こそ、深志生の姿」として、いまも受け継がれる。

昨春も色鮮やかな鯉幟が空を泳いだ。応管団長・村田七穂さん（16）＝2年は「深志生が困難を乗り越え、鯉から龍になり天高く羽ばたくよう願いを込めた」。副団長・牧平幸太朗さん（17）＝同＝は「登龍門を毎日通る皆が将来の活躍を目指し、深い志で日々勉強、生徒会、部活に取り組んでいる」と力を込めていた。

（田中千絵）

深志生への願いが込められた「登龍門」で、伝統の〝とんぼポーズ〟をとる応管の村田団長（左）と牧平副団長